

# 令和7年度 学校評価集計分析結果

## 1 実施時期 令和7年12月上旬～中旬

Classi及びFormsによるアンケート

## 2 対象及び回答状況

生徒 388名回答/391名 回答率99.2%

保護者 338名回答/391名 回答率86%

教職員 34名回答/34名 回答率100%

## 3 分析内容

### (1) 分析表の表示について

ア 学校評価近似項目を抜粋し昨年度のポイントと比較。

イ 数値は「その通り(10点)」「概ねその通り(7点)」「やや違う(3点)」「全く違う(0点)」とし、平均値をとったもの。

### (2) 学校生活全般

学校生活全般		生徒	保護者	教職員
生き生きとした安心・安全な学校生活を送っている	R 7	8.4	7.4	9.4
話しやすい相談しやすい	R 7	7.8	7.2	7.8
意思疎通ができています	R 6	7.5	7.4	7.9

学校生活全般について、生徒は「話しやすい相談しやすい意思疎通ができています」で0.3ポイント上げ、良好な様子が伺える。一方で、保護者では2項目とも昨年度を下回り、特に「生き生きとした安心・安全な学校生活を送っている」では、数値が0.3ポイント下降した。これより保護者満足度を上げていく必要があることが分かる。教職員は例年の水準を保っている。

### (3) 生徒指導

生徒指導		生徒	保護者	教職員
生活指導、服装指導等に一貫性があり適切に行っている	R 7	7.9	7.4	8.2
教職員は、適切な部活動指導を行っている	R 6	7.7	7.3	7.9
アンケート等でいじめの未然防止や早期発見、速やかな対応に努めている	R 7	8.1	7.0	7.7
	R 6	8.2	7.5	8.7

生活指導、服装指導について三者とも良好な結果となった。生徒と教職員が参加し行われた校則検討委員会で検討し変更した校則にも徐々に慣れ、生徒自らが主体的に課題に臨める事への満足のあらわれではないだろうか。しかし教職員にとっては「適切な指導」が難しい部分もあり、引き続き検討を重ねていきたい。部活動においては、生徒、保護者ともに数値が上昇している一方で、教職員は下降している。それぞれの部

で実態に応じた「適切」を探していきたい。いじめの未然防止について、三者とも値が昨年度より低く、改善が要される結果となった。但し、生徒独自質問の「はいじめ防止に自ら努めている」の項目においては高い値となっており、生徒一人一人の抑止に対する意識は高まってきていると考えられる。

### (4) 学習・進路指導

学習・進路指導		生徒	保護者	教職員
適切な教科指導(授業改善)を行っている	R 7	8.4	7.5	7.6
進路希望の実現を目指せるように指導している	R 6	8.3	7.6	8.1
校内外のさまざまな人と関わり、自分の進路や将来について明確な目標ができた	R 7	7.5	6.6	8.1
	R 6	7.3	6.8	8.4

学習・進路ともに生徒の評価はすべての項目で昨年度より上昇しており、教員は現在の授業改善や進路指導で生徒が肯定的に捉えていると考えてよいのではないだろうか。しかし教員の方は生徒の多様な進路への対応が影響してか数値が下降している。更に保護者、教員ともに「校外の方との関わりから明確な目標」が下降している。生徒が人との関りからより明確な進路目標を持てるような手立てを探していきたい。

### (5) 強化を図りたいもの

強化を図ってほしい(図りたい)もの		
生徒	保護者	教職員
学習 183	進路 231	学習 28
進路 156	学習 173	生活 18
部活 74	生き方 126	進路・生き方 14

生徒、教職員が日々の学習を強化したいのに対し、保護者は進路に強い関心を持っていることがわかる。時代や生徒・保護者のニーズを把握するために活用していきたい。

## 4 まとめ

生徒は16項目中13項目で上昇となり、学校生活全般に肯定的な印象が集まった。保護者については昨年度と比較できる項目14項目中7項目で下降し0.3ポイント以上の下降が2項目となっている。中でも「いじめの未然防止、早期発見、速やかな対応」について0.5ポイントの下降となった。

この数値化で7.3を超えていると「概ねその通り」までの肯定的な回答が約8割を超える事になる。ほぼすべての質問でこの割合となり、各項目の関係分掌学年でこの状況を保持増進させていきたい。